

		音 楽 研 究 会		部 会 記 録	
日時	平成29年 10月 4日(水) 15:30~16:45				
部会名	研修部 管楽器部会			主任	田中 亜由美
参加数	4名	司会	山口 真貴子	記録	田中 亜由美
研 修 内 容	<p>「合奏をしよう」</p> <p>講師：さわの里小学校校長 後藤俊哉先生 場所：横浜市立上末吉小学校</p>				
	<p>○上末吉小学校特設管楽器クラブについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は4年生から6年生までの児童49名で活動している。月曜日から金曜日の朝7時40分から8時15分までの朝練習のほか、土曜日の午前中にも練習を行っている。 <p>○基礎練習、ロングトーン練習のご指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 管楽器は「力を抜いて吹くこと」「音のはじまり、終わりを揃えること」を、打楽器は「拍を一定にとること」「音の粒(大きさ)をそろえること」を中心にご指導いただいた。 <p>○練習曲によるご指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 普段よく演奏しているというマーチを聴かせていただいた。後藤先生が「この曲の前半の主役はチューバ(低音楽器)である」とお話しされ、チューバの音が聞こえるように演奏し、周りの楽器の音を聴いて拍を取って演奏するなど、「お互いの音を聴き合う」「響きを合わせる」という意識が大切であるということについて指導された。 <p>○活動終了後の研修会</p> <p>指導担当の石井先生より</p> <ul style="list-style-type: none"> クラブをずっと1人で指導してきたことにより、部員が先生の指示待ち状態となってしまうことが悩みである。練習メニューや曲想の表現についてなど、子ども達同士で相談したり、自分で気づいたりするなどして活動していったほしいがどうすればいいか。 クラブの担当が実質1人のため、打楽器の指導など全てには手が回らない。大会前は講師を呼ぶなどしている。 「いい音を出したい」というが、「いい音」とはどのようなものか? 肺活量を増やすため、基礎練習でペットボトルを使用したトレーニングを行っている。ペットボトルをくわえて息を吸う・吐くを繰り返すことで、ペットボトルがへこむなど目に見える成果もあり、有効であると感じている。子どもも意欲的に取り組んでいる。 <p>後藤先生のご指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 「前の曲はこうやって演奏したから、これも同じようにするといいのでは」「ほかの学校はこうしていたから、こうする」というように、子どもたちの中に引き出しがないと自主的な行動はできない。教師の種まきやヒントの与え方、待つ時間が大切である。 自分が「いい音」と思い、他人もそれを「いい」と思うと事実になる。比較できる目標となる「音」のイメージをもたせ、それを子ども達の間で共有することができることよい。前述の引き出しの話にも通ずる。 金管バンドで音楽を演奏することのよさ、成就感を味わうことで、生涯音楽にもつながる。 				